令和３年度　京都府立大江高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
知情意体の調和のとれた発達を図り、時代の変化に主体的に対応できる、日本や地域社会の未来を担う人間を育成する。 １　確かな学力【知】 知識や技能の基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ意欲と課題解決能力を育てる。 ２　豊かな心【情】 徳性を高め、豊かな感性や情操を培うとともにボランティア精神を養う。 ３　強い意志【意】 自らの進路や新しい社会を切り拓く強い意志とチャレンジ精神を養う。 ４　頑健な身体【体】 自他の生命を大切にし、健康でたくましく生きる体力を育む。	１　成 果 ⑴　系統的かつ計画的に進路指導を行い、12年連続で就職内定率100%につながった。 ⑵　京都フロンティア校（地域創生推進校）として、これまでの成果を継承し、体験型学習としてのアクティブラーニングをさらに深化させ、インターネットショッピングモール「くるせる」やＩＣＴ機器を駆使した地域の情報発信等、一歩進んだ学習活動を展開させることができた。 ⑶　様々な学力層の生徒が混在する中で、各教科で授業の進め方や教材などを工夫したり、多面的な学びを提供できた。特に前年度から京都府教育委員会が取り組む「スマートスクール推進事業」が、コロナ禍で加速的に取り組まれるなか、教室に配備された最新の電子黒板や教師用タブレット端末等のICT機器を活用した質の高い授業についての研究と実践を推し進めることができた。。 また、第２学期後半から同じく京都府教育委員会が取り組む事業である「セカンドラーニング教室」を活用し定期考査前の特別講習を実施し基礎学力の向上に繋がった。 ⑷　マナーアップを目指し、登校時に生徒指導部をはじめ学年部の教員が校門での積極的な声かけ等、年間を通して取り組むことができた。また、課題となっていた問題行動もねばり強い指導によって改善され、特別指導を行う事案は無かった。 ⑸　コロナ禍ではあったが、授業や部活動において、専門的な知識・技能を高める指導により、優秀な成績を収めることができた。成績については以下のとおりである。 ・ＫＯＢＥ ＨＩＧＨＳＣＨＯＯＬ ＪＡＺＺ－ＲＡＬＬＹ（団体）ヤマハ特別賞（個人）優秀個人賞 ・第27回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園 近畿ブロック本戦代表決定戦進出」（WEB開催） ・第40回近畿高等学校総合文化祭　奈良大会　出展（WEB開催） ・第16回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール2020」 ポスター部門　優秀賞＜公益社団法人京都府防犯協会連合会＞ ・京都SKYセンターマスコットキャラクター　最優秀企画デザイン賞 ・世紀のダ・ヴィンチを探せ！高校生アートコンペティション　入賞 ・令和２年度京都府高等学校商業実務競技会（オンライン）【団体】準優勝【個人】第２・５位・８位 ・令和２年度「税に関する高校生の作文」福知山地区租税教育推進協議会長賞 ・YouTube甲子園2021　優秀賞 ⑹　教務部長を主幹とする系統長会議を定例化することができた。１年次は同じ教育課程で学ぶため、主に教科「産業社会と人間」の教育内容について研究し、各系統長が共通理解するなかで２年次に繋がる教育活動を実践することができた。また、各教科において各系統で次年度に展開する科目についてのシラバスを作成し、具体的な指導内容と評価について策定することができた。 ２　課 題 ⑴　新学科「地域創生科」の完成年度である令和４年度での的確な目標を策定し、それにむけた具体的な取組をさらに推進する必要がある。 ⑵　学習指導については上記の通り一定効果が見られるが、全体的な学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しや、応用力を身に付けるための手立てを検討する必要がある。 ⑶　部活動についは、加入率が低くなり苦慮している。部活動の意義や効果について広く指導し活性化を図る必要があることから、組織的に運営するための指針の作成や人員配置が必要である。。 ⑷　昨年度に続き、新学科「地域創生科」の中学生及び保護者に対する教育課程等、教育内容の周知が十分に進まず、生徒募集においても定員を大きく下回ることとなった。ホームページの更新や地域創生科ニュースを通じて工夫を試みたが成果が上がっていないのが現状である。次年度においては、地元中学校への広報誌の作成・配付や訪問をとおして本校の教育内容について、一層周知を図ることが必要である。 ⑸　ICT機器を活用した質の高い授業についての研究を一層推し進め、特に令和４年度入学生全員が個人用タブレット端末を購入することとなるため、それを活用した効果的な学習システムの構築が課題である。	１　組織・運営 ⑴　前年度までの教育活動を省み、課題解決に向けた取組を推進するとともに、指標を設け、成果の「見える化」を図る。 ⑵　新学科「地域創生科」が、令和４年度に完成年度を迎えることから、教育課程に位置づけられた教育内容の研究を推進する。 ⑶　今年度までの3箇年、志願者数が大きく定員を下回ったことから、中学校への出張説明会やマスメディア及びホームページを通じた広報活動を展開し、「地域創生科」の周知に務め志願者数の増加を図る。 ⑷　働き方改革を推進し、業務の効率化を図るとともに複雑化・多様化する課題に的確に対応できる組織づくりを行う。また、月１回のノー残業デー（給与支給日）、考査期間中のノー会議、タイムマネジメントアクション（午後8時以降のやむを得ない業務の管理職への申告）等の具体的な取組をとおして勤務時間の縮減を図る。 ⑸　いじめ防止の取組、防災教育・交通安全教育、環境美化を推進し、安心・安全な学校環境を構築する。また、喫緊の課題となっている新型コロナウイルスへの対応について、生徒及び教職員が高い意識を持ち、早期収束に向け対応する。 ２　学習指導 ⑴　きめ細かく粘り強い指導を行うとともに、個に応じた学力の向上を図り、全生徒が「第1希望の進路が実現でき、本校に入学して良かった」と実感できるように努める。 ⑵　改定京都府教育振興プランに明記された「教育環境日本一」への取組の一環として、配備された電子黒板やタブレット端末等のICT機器を効果的に活用し、「スマートスクール京都一」を目指す。 ３　生徒指導 ⑴　社会人基礎力を身につけるために必要なマナーアップを３つの視点からさらに推進し、将来地域を担う人材の育成につなげる。 ア　公共交通機関での乗車マナーの向上及び通学路でのマナーアップによって、社会の一員としての規範意識を高める。 イ　あいさつの励行、携帯電話の使用、ゴミ・環境問題など、校内でのマナーアップに努め、安心･安全で清潔な学校環境づくりに取り組む。 ウ　積極的な授業態度や家庭学習の習慣化により、学ぶ姿勢の育成と基礎学力を向上させる。 ⑵　生徒の多様な学びの場としての教育意義が大きい部活動の活性化を図る。 ⑶　近年危惧されている大麻などの薬物乱用について、日常の教育活動全体を通じた生徒への啓発や家庭への情報発信に努め、その防止に務める。 ４　進路指導 ⑴　就職について ア　多様な生徒が在籍することを踏まえ、地元企業を中心として幅広い求人開拓を行い、希望や適性に応えられる環境整備を図る。 イ　放課後の就職講習を実施するなど、早い段階から系統的かつ計画的に進路指導を行い、1次内定率の向上を図る。 ⑵　進学について ア　早期に目標設定を行うことにより、学校推薦型選抜と総合型選抜、一般選抜等に対応した学力の養成を図り、第1志望の上級学校に進学させる。 イ　進学対象者を中心とした、放課後や長期休業中の講習を実施し、上級学校の選抜に応じた学力を身に付けさせる。

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>項目（重点目標）</th><th>具体的方策</th><th colspan="2">評価</th><th>成果と課題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">組織・運営</td><td>魅力ある学校づくりの推進と学びに向かう教職員集団の醸成</td><td>令和4年度に完成年度を迎える総合学科「地域創生科」における具体的な学習内容・学習方法についてさらに研究を深める。また、学習活動に「学び合い」「ＩＣＴの活用」を積極的に取り入れるなど、自ら授業改善に取り組み、生徒の主体性の引き出しや学力のより一層の伸長を図る。
〔学校経営計画における具体的方策の評価Ａ及びＢの割合〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>90%以上</td><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>70%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="3">B</td><td>地域創生科完成年度に向けて、指導体制が確立できるよう、学習内容や学習方法の研究を深めることができた。一方、各系統の関連教科に依存しているところが多くなっていた。学校全体での取組内容の計画や共有を進めていくことが課題である。
授業の工夫改善においてはＩＣＴ機器を活用した授業等に積極的に取り組むことができた。学習用タブレット端末の活用や観点別評価を生かした授業の研究をさらに進め、確かな実績を積み上げたい。</td></tr>
<tr><td>広報活動の推進による「地域創生科」の周知</td><td>地元中学校への広報誌配付や説明会への参加など、中学生や保護者に対して本校の特色ある教育内容の魅力を発信することにより、志願者の増加を図る。
〔本校活動が新聞等に取り上げられた件数〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>40件以上</td><td>30件以上</td><td>18件以上</td><td>18件未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>コロナ禍で特色ある教育活動や中学生に本校の魅力を周知させる取組に制限がかけられたが、ホームページや報道等を活用して情報発信に努めることができた。今後は小中学校や地域の取組に参加する機会を増やしたり、ホームページや広報誌をとおして、本校生の声や活動の様子を広く伝えたりすることで、本校を身近に感じさせることによって、さらなる志願者の増加につなげたい。</td></tr>
<tr><td>生徒・保護者・地域に信頼される安心・安全な学校環境の構築</td><td>マナーアップの指導をさらに推進することにより、全生徒が安心して過ごすための学校環境を構築するとともに、新型コロナウイルス感染症について、生徒及び教職員が高い意識を持って対応し、感染の拡大防止・早期収束を図る。
〔学校評価アンケートの項目「学校生活は充実していて。自分の将来に有益である」に対する「当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した生徒の割合〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>90%以上</td><td>80%以上</td><td>75%以上</td><td>75%未満</td></tr></table></td><td>A</td><td>個々の生徒に応じた丁寧な指導に粘り強く組織的に取り組み、安心して過ごすことができる学校環境づくりに努めることができた。特に、新型コロナウイルス感染症における感染拡大防止の取組については、教育活動全体を通じて、機会を捉えた生徒への指導や保護者への周知ができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教務部</td><td>授業力向上</td><td>生徒の力を伸ばすために、タブレット端末や電子黒板などのＩＣＴ機器を活用するなど、教材や授業方法を工夫し、分かりやすい授業を展開する。また、学習環境を整え、生徒が集中して授業に取り組めるようにする。
〔ＩＣＴ機器を活用する授業の割合〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="3">B</td><td>多くの先生がＩＣＴ機器を使って授業を行っており、機器への抵抗感もなくなり、生徒もそれに慣れてきた。次年度のＢＹＯＤに向けた研修を行っており、今後は教師と生徒の双方向の授業、生徒に機器を活用させる授業を進めていくことが課題である。
学習環境は概ね落ち着いており、ほとんどの生徒が集中して授業に取り組むことができているが、一部課題のある生徒もいる。</td></tr>
<tr><td>学科改変</td><td>地域創生科開設２年目に当たり、系統別学習の本格的実施となる。新科目の授業内容を具体化し、スムーズな立ち上げを図る。
〔地域創生学演習の生徒の授業満足度〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>90%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>「産業社会と人間」については２年目ということもあり、昨年度の活動に改善を加えながら効果的に進めることができた。「地域創生学(演習)」は、全体で活動する内容を系統長会議等で話し合いながら進めることができた。系統ごとの取組については、各系統が特色を出しながら進めたが、地域での活動の多くがコロナ禍で制限された。</td></tr>
<tr><td>効果的な広報活動</td><td>学校説明会、オープンスクール、中学校訪問の機会を通じて、本校の魅力を中学生、保護者へ積極的にＰＲし、志願者の増加を図る。
〔前期選抜及び中期選抜における募集定員に対する志願者数の割合〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>100%以上</td><td>70%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>C</td><td>コロナ禍において募集活動は制限され、一部の取組は中止となった。開催できた取組では、本校生徒の協力もあり、本校の魅力を発信できた。生徒募集に関しては、今年度も依然として苦戦を強いられているが、昨年度に比べると増加傾向にある。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事務部</td><td>生徒・教職員が安心・安全な学校生活が送れる環境づくり</td><td>短期経営計画に基づき、教育内容の充実のために適切な予算の計画的効果的な執行を図る。
危険な箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理を行う。
〔教科・分掌予算の要望に対する充足度〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>95%以上</td><td>80%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="3">予算については、特別配分(コロナ対策等)も含め、適切に執行することができた。(教員用タブレット端末については、年度末配備)
改善を要する設備(電話設備)及び情報機器及び産振設備の更新については順次、改修･更新することができた。多額の予算を要するものについては、継続して府教委に要望していく。
就学支援制度については、学年部とも連携し、進めることができた。
学校の窓口である事務室として、適切な来客・電話対応をすることができた。</td></tr>
<tr><td>組織的な学校運営</td><td>生徒の修学援助通知等を徹底し申告漏れのないようにする。
学年や分掌と連携し、学校課題の解決に向けた校務運営に参画する。
財務・会計事務の適切な執行を行う。
〔申請者のうち、提出期限内に提出された割合〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>95%以上</td><td>80%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td>信頼される学校を念頭におき窓口業務及び電話対応を行う</td><td>開かれた学校づくりを担う事務部として、来客・電話応答について丁寧で温かい対応を行う。
生徒に社会規範を基礎とした窓口対応を行う。
〔保護者等本校に対する満足度（学校評価アンケート等）〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>95%以上</td><td>80%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>項目（重点目標）</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評　価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">第１学年部</td><td>規律を守り正しい生活習慣を身につける</td><td>挨拶・言葉遣い・振る舞いなど社会人として必要なマナーを身につけさせる
〔達成人数・%〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="3">B</td><td>正しい生活習慣の確立に向け、継続した指導に努めた。多くの生徒は授業や特別活動に真面目に取り組む姿勢を身につけ、一定の成果を見ることができた。しかし、授業中の態度に課題があり、改善に時間を有する生徒もおり、今後も粘り強い指導が必要である。2年次には全員が取り組むインターンシップが計画されており、それに向けた指導を通して一層の成長を促したい。</td></tr>
<tr><td>希望進路の実現</td><td>中学校時代に不登校生徒が多い中でただし生活のリズムと学習指導を身につけさせて全員進級を目指す。
〔進級できなかった人数〕※仮進級を含み、進路変更の生徒を除く
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>0人</td><td>3人未満</td><td>5人未満</td><td>5人以上</td></tr></table></td><td>B</td><td>１学期当初に１人の生徒が休学となった。また2学期後半から登校に課題を有する生徒があり、体調不良や家庭の事情、寝坊など様々な事由に対して、個々に適切な対応を行った。学年部や保健部などが家庭と緊密に連携し、それぞれの進路希望に応じて一緒に将来を考えることができた。今後はさらに生徒に寄り添い、保護者と連携した取組を進めたい。</td></tr>
<tr><td>学力の定着</td><td>さらなる学力の伸長を図り他校生徒に対抗できる学力をつけ、競争に負けない生徒を増やす。
〔学年末の評定平均が4.0以上の人数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>６人以上</td><td>3人以上</td><td>1人以上</td><td>0人</td></tr></table></td><td>A</td><td>評定平均4.0以上の生徒は6人であったのでAと評価した。しかし2.7以下の生徒が7人あり、学力不足の生徒の割合も多い。
半数が進学希望であるが、今後２年次の早い時期から生徒のレベルに合わせた問題集等に取り組ませ、基本的な学力の定着に向けて努めなければならない。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">第２学年部</td><td>ICT機器を活用した学習を積極的に活用する</td><td>ICT機器、スタディサプリなどを活用できる知識を身につけ、自ら積極的に学習に生かす習慣を身につけさせる。
〔休業中を含めた学習教材視聴・利用人数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>28人</td><td>２0人以上</td><td>14人以上</td><td>14人未満</td></tr></table></td><td>D</td><td rowspan="3">C</td><td>スタディサプリの機能は毎日全員活用できたが、学習への活用については、進路希望調査やポートフォリオの入力以外は、一部の生徒しか活用できていない。各教科で個別に利用を促している生徒以外も活用できるように次年度も働きかける必要がある。</td></tr>
<tr><td>地域創生科1期生としての自覚</td><td>系統別学習やインターンシップなどを通して個々の住む地域への関心を高め、自らの進路実現に向けての具体的な目標を見つけられるよう指導する。
〔インターンシップ等の取組における満足度〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>75%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>おおよそ85%の生徒がインターンシップに満足し、残りも「どちらとも言えない」との結果であった。働く事への喜びや関心が高まった取組であったが、各事業所から指摘された「挨拶」「身だしなみ」「時間を守る」等の常識的な内容が、事前指導したにもかかわらず指摘されたこともあり、次年度も引き続き進路に係わる取組で継続した指導をしていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>マナーアップ</td><td>1年後を見据えて挨拶の励行、正しい制服の着こなしなど日々の声かけを重視する。生徒とのより良い人間関係のを構築するため、家庭との連携を密にする。
〔アンケート調査によるマナー意識向上率〕スタディサプリにて年3回実施
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>アンケート実施については3回を確保することができなかった。しかし、日常的な指導により、挨拶や制服の着こなしについても意識する生徒が増加傾向にある。３年次には希望進路実現に向け、意識向上につながる具体的に取り組んでいく必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">第３学年部</td><td>希望進路の実現</td><td>進路指導部と連携しながら、個々の生徒に具体的な進路のスケジュールを把握させ、自らが主体的な活動を展開できるように指導を行う。
〔卒業時点での進路未決定者数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>0人</td><td>3人未満</td><td>5人未満</td><td>5人以上</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="3">B</td><td>就職希望者は年内に全員が内定を決めた。進学希望生徒の未決定者は２月10日現在１人であったが、2月末には希望者全員の進路が決定できた。
課題としては、第一志望校、第二志望校等の受験対策が十分にできなかったことが残念である。</td></tr>
<tr><td>第３学年としての自覚と責任</td><td>将来の社会人としてのあり方や生き方を考えさせ、社会生活の中での言葉遣いや身だしなみ、マナーの定着やスキルアップを図る。進路決定後も目標を持たせる指導を行う。
〔資格取得の延べ人数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>36人以上</td><td>26人以上</td><td>20人以上</td><td>20人未満</td></tr></table></td><td>A</td><td>全商ビジネスコミュニケーション検定や全商珠算・電卓実務検定１級、実用英語検定準２級などで例年以上に成果をあげ、上半期だけで延べ49人が各種の検定試験に合格した。10月以後の資格についても、積極的な受験をするよう指導し、下半期にも漢字検定2級の合格など17人が成果をあげた。</td></tr>
<tr><td>学力の定着</td><td>各教科及び分掌と連携し、日々の学習活動の様子を常に把握し、進路実現と卒業に向けて丁寧な指導を行う。
〔学年末の評定平均が4.0以上の人数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>14人以上</td><td>11人以上</td><td>8人以上</td><td>8人未満</td></tr></table></td><td>C</td><td>教科担当の先生方の丁寧な指導により、１学期期末の成績会議資料で評価平均7.4以上の生徒が14人、２学期期末の成績会議資料で評価平均7.1以上の生徒が14人となった。
最終の学年末評定平均が4.0以上の生徒は10人であった。学年部でも学習活動の様子を把握し、適切に指導できた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>項目（重点目標）</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評　価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">保健部</td><td>健康安全教育の充実</td><td>新型コロナウイルスに関する知識や感染予防対策について周知し、正しい知識の基、感染予防対策が実行できる生徒の育成に努める。
〔感染症予防に関する啓発活動の実施状況〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>毎日実施</td><td>週１回以上実施</td><td>月１回以上実施</td><td>月1回未満実施</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="3">B</td><td>毎月保健だよりを発行し、新型コロナウイルス感染症について情報発信や注意喚起を行うことができた。また、文化祭では、保健委員会の生徒がマスク着用の意義等について発表し、自分自身ができる感染予防対策について見直すように働きかけることができた。
感染予防対策は定着しつつあるが、昼食時の黙食は不十分である。自他の感染防止に係る適切な行動がとれるように指導を継続する必要がある。</td></tr>
<tr><td>環境教育と校内美化活動の充実</td><td>日々の清掃活動を確実に行うと共にごみ分別の徹底と減量を図る。
〔ゴミ分別の実施状況〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>100%</td><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>真面目に日々の清掃活動に取り組む姿勢がみられた。また、ゴミの量が減り、分別も概ねできるようになっている。
ゴミの減量や分別が環境教育の一環につながるよう、継続した指導を行う必要がある。</td></tr>
<tr><td>特別支援教育の充実</td><td>個別の教育指導計画の作成と活用を推進し、生徒の困り感に寄り添ったきめ細やかな支援の充実を図る。
〔個別の教育指導計画を活用した支援の実施状況〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>100%</td><td>80%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>C</td><td>学年部の協力により、個別の教育指導計画は概ね作成できているが、活用にまで至っていない。
様々な課題がある生徒が在籍しているため、個に応じた指導が行えるよう、発達障害への理解と個別の指導計画の活用を推進するための手立てが必要である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生徒指導部</td><td>社会人基礎力を身につけさせる</td><td>学年部と連携し、全教職員で身だしなみ指導を行う。
あいさつ、言葉遣い、振る舞いなど社会人として必要なマナーを身につけさせる。
薬物乱用、ネットトラブル等の講演会・研修会を実施して積極的な指導を行う。
問題行動を未然に防ぐよう指導を行う。
〔指導件数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>0件</td><td>5件未満</td><td>10件未満</td><td>10件以上</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td>今年度も多くの教職員による早朝立ち番指導、通学指導、鍵当番等を実施し、一定の落ち着きの中で学校生活が送れていたが、挨拶・言葉遣い等については課題が残った。また、身だしなみについても改善に時間のかかる生徒がいる。今後も継続した指導が必要である。
今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、一定の制限はあるが、生徒指導部主管の取組については周囲の協力により、概ね実施できた。
特別指導０を目標にしていたが、3件の指導を行った。今後は未然防止に向けた取組が必要である。</td></tr>
<tr><td>生徒の活力を引き出す</td><td>生徒会とも連携して部活動の活性化に向けた取組を行う。
従来の行事等を継続且つ充実させる。
部活動組織の有り様を考える。
〔部活動加入率〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>30%以上</td><td>30%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>生徒会との連携や、ポスター等の啓発活動、先生方の働きかけもあり、部活動の加入率は実数でR1は54%、R2は44%、R3は68%と増加したが、生徒の活動率については改善の余地がある。今後、さらに内容の充実を学校全体として図りたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">進路指導部</td><td>基礎学力の定着、また、さらなる学力の向上を図る</td><td>放課後の進学・就職講習、模試を計画し実施する。
〔進学・就職講習参加者の割合（３年生）〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>40%以上</td><td>40%未満</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="3">B</td><td>進学・就職講習に参加した３年生は、実人数31人であり、72.1%となった。特に、今年度から実施をしている就職講習においては、第3学年部とも連携し、多くの参加者が毎時間出席した。その成果もあり、就職一次内定率は前年度を上回った。
しかし、進学講習においては、自主的に申し込む生徒が少なく参加を促した。今後、講習の実施方法等、見直しを図る。</td></tr>
<tr><td>３年生の希望進路を実現させる</td><td>系統的かつ計画的に進路ホームルームや進路ガイダンスを実施するとともに、学年部や保健部と連携し個に応じた指導を行う。
〔就職一次内定率〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>就職一次応募生徒は25人であり、就職一次内定率は76.0%である。年度当初の計画に基づき、進路ホームルームや進路ガイダンスを実施するとともに、学年部や保健部とも連携しながら個に応じた指導ができた。
今後も、他の分掌と連携しながら丁寧な指導を継続していく。</td></tr>
<tr><td>１年生、２年生の進路意識を向上させる</td><td>インターンシップの実施、オープンキャンパスや企業説明会への参加を促し、自ら積極的に進路について考え、行動する力を身につけさせる。
〔２学期に実施する進路希望調査において、進路を明確にした生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>A</td><td>２年生においては、今年度全員インターンシップを実施、また、進路学習や進路講演会を行い、勤労観・職業観の育成を図った。１年生においても、進路講演会・職業体験を実施するとともに、今年度は全員進路面談を行い、進路意識の向上を図った。11月に実施した１・２年進路希望調査において、進路を明確にした生徒の割合は、88.9%であり、取組の成果を見ることができた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>項目（重点目標）</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評　価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ビジネス科学科</td><td>探究活動による地域創生教育の実践</td><td>探究活動を通して地域課題を発見し、調査や研究、分析を実践することで思考力・判断力・表現力を育成する。同時に、研究発表や課題解決策の提案につなげる。また、各種取組の企画や運営に対して積極的に参加し、次世代の担い手として地域活性化に貢献できる能力を養う。
〔地域創生活動の実践回数〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>７回以上</td><td>５回以上</td><td>３回以上</td><td>３回未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="3">A</td><td>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、販売実習やイベントの企画・運営など、地域連携による探究活動ができなかった。しかし、映画監督による「映像メディアデザイン論」や京都芸術大学客員教授による「YouTube配信」など、外部講師を活用した取組により、多くの知識やスキルを身につけることができた。その成果を活かすため、映像コンテンツ制作や配信に努め、「観光甲子園2021」への観光プラン企画や「YouTube甲子園2021夏」への作品応募、いちご農園CM制作などに取り組むことができた。
観光実習として京都府北部地域の魅力を伝える「大江高校！マイクロツーリズム」を企画したが、コロナ禍で中止を余儀なくされた。</td></tr>
<tr><td>主体的な学習態度の育成</td><td>商業教育を通して、変化の激しい時代を生き抜くために必要なコミュニケーションスキルや主体的に学習に取り組む姿勢を育む。また、ICT機器を積極的に活用し、各種検定試験や競技会への参加、作品応募など、学習成果の向上を目指した指導を徹底する。
〔各種検定試験合格者のべ人数）〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>36人以上</td><td>26人以上</td><td>16人以上</td><td>16人未満</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="2">各種競技会や検定試験への取組など、商業教育を通して、コミュニケーションスキルや主体的に取り組む態度を育成することができた。
京都府教育委員会の依頼を受けた第２期京都府教育振興プラン広報動画の企画や制作を通して、思考力や表現力を一層高めることができた。
福知山青年会議所と連携して「大江フォトロゲイニング」の運営に参加した。地域の観光名所を巡ることで観光資源の認識を深めるなど、探究活動を実践することができた。同時に「郷土愛醸成事業」を実施し、未来アイデアワークショップを行うことで、活動を振り返ることができた。
インターネットショッピングモール「くるせる」では、新型コロナウイルスの影響により校外学習が実施できず、新規参画企業の獲得ができていない。また、映像コンテンツを活用した広報活動にも苦慮した。</td></tr>
<tr><td>効果的な広報活動の推進</td><td>高大連携や企業連携など、広報活動に必要な最新で専門的な知識やスキルを習得させる。同時に、映像コンテンツやポスター制作の成果物を活用した広報活動を展開する。また、SNSによるコンテンツ配信の活用方法の研究や分析を重ね、効果的な広報活動を目指す。
〔広報活動に対する生徒の評価割合〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>40%以上</td><td>40%未満</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="3">国語科</td><td>基礎的な国語力の向上</td><td>漢字・語彙・文法事項など、国語の基礎知識に関わる小テストを全学年で、年間を通して定期的に行い学力の定着を図る。また、漢字検定を複数回校内実施する。
〔漢字検定受検者の合格率〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="3">B</td><td>ほぼすべての授業で、知識の定着度を測る小テストを実施した。３年間を通して行うことで、基礎的な知識の定着を図ることができた。漢字検定では直前の講習会を導入することで、昨年度までに比較すると合格率が上昇し、今年度の合格率は50%であった。今後、講習への積極的な参加を一層促し、多くの生徒が合格を勝ち取ることができるよう、検定のアナウンスや勉強のサポートをしていきたい。</td></tr>
<tr><td>鑑賞・表現力の向上と読書指導の充実</td><td>全学年を通して表現活動を積極的に取り入れるとともに、校内での掲示や校外のコンクールなど他者の評価を受ける機会を設けることで、資質能力の向上を目指す。また、学校図書館司書と協力し読書に慣れ親しむ態度を育成する。
〔コンクール等に作品を応募した回数〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>６回以上</td><td>４回以上</td><td>２回以上</td><td>１回以下</td></tr></table></td><td>B</td><td>主に国語表現・国語演習の時間を通して年間で５つのコンクールに応募した。 校外での活動が阻まれるなか、校内でできる表現活動を幅広く行うことができた。残念ながら受賞することが叶わなかったため、次年度以降は応募総数の少ないコンクールに狙いを定め、受賞を目指すことにより自己肯定感の向上につなげたい。
学校図書館にはディベートを行う際に、本校所蔵のみではなく外部の図書館と連携を図り、必要な資料を準備した。次年度以降も緊密に連携をとっていきたい。</td></tr>
<tr><td>スマートスクール化の推進</td><td>タブレットやスマートフォンなどのＩＣＴ機器を活用し、より深い学びに向けた授業改善を行う。また、校内外を問わず研修会等に積極的に参加し、本校生徒の実態に応じた活用方法を模索する。
〔ＩＣＴを取り入れた公開授業の回数〕<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>６回以上</td><td>３回以上</td><td>２回以上</td><td>１回以下</td></tr></table></td><td>B</td><td>年間を通して国語科で３回しか公開授業を行うことができなかった。１人１台タブレット端末の活用が目前に迫るなか、ロイロノートの研修会が行われるなどＩＣＴ活用が喫緊の課題となっている。学校全体が手探りのなか、試金石となれるよう積極的な活用方法を模索していきたい。また、効果を見極め、適切な運用が行えるよう日々のPDCAを行なっていきたい。
校外での研修は次年度以降の課題とする。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>項目（重点目標）</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評　価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">地歴・公民科</td><td>学校設定科目の充実</td><td>地域の歴史・文化、地域が抱える諸課題について、関係諸機関との連携を図りながら、フィールドワークや施設見学、専門性の高い講演等を実施し、生徒の思考力・判断力を育成を図る。
〔学校特設科目の内容における生徒の肯定的評価の割合〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>95%以上</td><td>80%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="3">B</td><td>３年生アクティブB２では、大江町の皇大神社等でのフィールドワークを実施し、地元の歴史や文化を体感的に学ばせることができた。また、福知山市議会の傍聴や市議会議員の方との交流を通して、主権者としての意識を高めることができた。２年次の公共マネジメントでは、地域学習の一環として、新聞活用授業や防災教育などを実施し、さまざまな視点から地域について考える機会を設けることができた。</td></tr>
<tr><td>生徒を伸ばす学習指導</td><td>毎時間の単元目標を明確にし、ＩＣＴ機器を有効的に活用しながら、各科目における基本的事項の習得を目指す。
〔１年生、２年生、３年生における「確認テスト」の合格者〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>95%以上</td><td>80%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>A</td><td>各科目２、３年生を中心に小テストを実施し、定期考査では、基本的事項の定着が一定みられた。また、２年次の公共マネジメントでは、就職模試やSPI等の問題に取り組み、３年次の進路実現に向けて、基礎学力を身につけることができた。しかし、応用問題や論述等については苦手意識を持つ生徒が多いため、日々の授業でも取り組む機会を増やしていきたい。</td></tr>
<tr><td>自ら学ぶ姿勢の育成</td><td>自ら「問い」を立てる力の育成を図り、問題解決のため、適切な情報収集の力を身につけ、研究発表や課題解決の提案を行う。
〔上記内容における生徒の肯定的評価の割合〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>95%以上</td><td>80%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>世界史では「問い」を中心とした授業展開を行い、振り返りシートに自らの評価を書かせる取組を実施したことで、世界史に興味・関心を持つ生徒が一定みられた。公共マネジメントでは、現代社会の課題や問題を見出し、解決方法を提案・発表した。しかし、課題や問題の情報収集方法がインターネットに偏りがちであったため、情報収集の手段について学ぶ機会を積極的に設けることが次年度の課題である。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">数学科</td><td>計算などの基礎学力の向上
数学的な考え方を通して論理的思考力を身につけさせる</td><td>授業のユニバーサルデザイン化を図るとともに、体系的に分かりやすい授業を行う。また、数学が苦手な生徒に対しては補習を行う、得意な生徒に対しては進学講習等を活用するなどして、個に応じた教育の充実を図る。
〔定期考査における平均点が60点以上である講座数〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>7講座</td><td>5講座以上</td><td>3講座以上</td><td>3講座未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="3">B</td><td>どの授業においても、生徒にとってわかりやすく見やすいレイアウトを心掛け、生徒の習熟度や個性に応じた丁寧な授業を行うことができた。
また、一部の進学希望の生徒に対しては進学講習や個別指導を適切に行い、基礎学力向上に貢献した。
その結果、半数以上の講座では考査の平均点が60点を超えたが、60点未満の講座も２講座あるため、補習等を活用し、より一層の学力向上を目指したい。</td></tr>
<tr><td>数学を主体的に学ぶ意欲の向上</td><td>授業を通して生徒に数学の良さを伝えると共に、実用数学技能検定の受験を積極的に薦め、自ら学ぶことができる生徒の育成に努める。
〔実用数学技能検定の年間受験者数〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>7人以上</td><td>5人以上</td><td>3人以上</td><td>3人未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>どの講座においても、数学の良さや現実への応用について触れ、生徒が興味関心を持つ工夫ができた。
実用数学技能検定においては、積極的な受講の働きかけにより、受験者数は１学期３人、２学期3人の合計6人となった。２年次開講科目「数学演習」では実用数学技能検定準２級取得に向けた指導を行い、１次検定のほとんど全範囲の復習を行うことができた。今後も取組を継続して、受講者数と合格者数を増やしたい。</td></tr>
<tr><td>教員の指導力の向上および自己研鑽による専門性の向上</td><td>教科会議等で各クラスの状況を意見交換し、質の高い授業の維持に努める。
また、ＩＣＴの活用や効果的な指導方法について意見を出し合い、常に授業力向上を図る。
〔ICT機器を使用した授業回数（年間）〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>50回以上</td><td>35回以上</td><td>20回以上</td><td>20回未満</td></tr></table></td><td>A</td><td>教科会議だけでなく、日常的に授業の様子について状況把握や意見交換を行い、質の高い授業維持に努めることができた。
ＩＣＴ機器について、年間で75回の利用があり、効果的に活用することができた。来年度から生徒１人につき１台のタブレットを所持するので、今後より一層生徒のためになるようなＩＣＴ機器の使用方法について教材研究や意見交換をし、授業力向上につなげたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">理科</td><td>自然科学に対する理解</td><td>自然科学における基本的な用語・概念を理解させ、自然現象を科学的に読み解く力を養う。
〔定期試験における素点〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>40%以上</td><td>40%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="3">B</td><td>自然科学分野に対する興味・関心を高くもたせることができた。
計算問題や考察を深める問題に、時間をかけて取り組ませることができた。</td></tr>
<tr><td>実験・観察</td><td>実験・観察を通して、自然科学の分析方法を学び、自ら考えようと力を身につけさせる。
〔実施回数〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>9回以上</td><td>6回以上</td><td>1回以上</td><td>1回未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>化学基礎、物理基礎、生物基礎において、実験や観察を効果的に取り入れ、興味・関心をもたせることができた。
アクティブＡ２では、河川調査、自然観察を繰り返し実施し、さまざまな分析方法を指導し、発表につなげることができたた。</td></tr>
<tr><td>進学講習・就職講習</td><td>希望者に、適宜講習を設定し、希望進路の実現に結びつける。
〔実施回数〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>15回以上</td><td>10回以上</td><td>5回以上</td><td>5回未満</td></tr></table></td><td>A</td><td>進学講習では、少人数ではあるが熱心に取り組ませることができた。
放課後の講習は計画的に実施でき、目標は概ね達成できた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>項目（重点目標）</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評　価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">保健体育科</td><td>運動の技能を高める
体力の向上を図る</td><td>自己の運動機能や体力の課題を見つけ体力の向上を図る能力を育成する。
〔スポーツテストの結果を分析し、自らの目標を設定する〕学年毎の判定結果
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>A判定５人以上</td><td>A判定2人以上</td><td>C判定7人以下</td><td>D判定0人</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="3">B</td><td>スポーツテストA判定は５人となり、昨年の２人から増加したが、感染症の関係もあり、運動量が極端に減っており全体としての体力が向上したとは言えない。能力的に低い生徒も多いことから取り組みやすい軽微な運動を継続して行える授業形態を構築していく必要がある。</td></tr>
<tr><td>ICT機器を活用した授業の実施（保健・体育）</td><td>ICT機器を活用し、座学に限らず、視覚に訴え、よりわかりやすい授業を展開する。
〔保健・体育におけるICT機器の活用率〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>100%</td><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>保健・体育共にタブレット端末などを活用し授業を進め活用することができた。ただし、広い空間を使用する体育実技においてはWi-Fiが使用できず、大画面での解説ができないなど、ハード面の課題が多い。</td></tr>
<tr><td>安全教育</td><td>健康の保持増進を図る。感染症や怪我の防止に日頃から関心を持たせる。
体育施設・設備の安全点検及び整備を行う。
〔実技実施時の手指消毒・用器具の消毒、点検の実施〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>100%</td><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>毎時間の手指消毒や用器具の消毒を行い、生徒にも近隣の状況を提供しつつ健康課題を身近なものとしてとらえるよう促した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">英語科</td><td>進路に向けた英語力の向上</td><td>プリント課題や単語テスト、ノート作りなどに取り組ませ、家庭学習の習慣を確立する。
実用英語検定の受検を推進する。
〔検定試験受験数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>５人以上</td><td>３人以上</td><td>１人以上</td><td>０人</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td>全ての講座が少人数であり、個々に配慮した丁寧な指導を実施できた。毎時間自作のワークシートを活用し、単語テストや小テストを計画的に実施できているが、家庭学習の定着については課題が残った。
実用英語検定の受験者は、教員の声掛けや同クラスの受験経験者の刺激等により、１回目が２人、２回目が３人、３回目が３人と徐々に増加した。受験に対する意識も少しずつ高まってきており、さらなる充実を図りたい。</td></tr>
<tr><td>言語活動の活性化</td><td>ＡＥＴを活用し、コミュニケーション能力を育成する。
授業中の言語活動を推進する。
〔授業中言語活動率〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>30%以上</td><td>20%以上</td><td>10%以上</td><td>10%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>他校に比べ、英語の単位数が少なく、授業中の言語活動については一層の工夫が必要である。２学期からAETが配置されたが、入れ替わりがあったため生徒も戸惑いを見せていた。しかし、ティームティーチングの際には言語活動そのものを楽しみながら受講させることができた。今後も単位数とのバランスを考慮しながら活用を充実させていきたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">家庭科</td><td>基礎的・基本的な知識と技術の習得させる</td><td>授業を通し、生活に必要な知識と技術を習得させ、家庭生活を充実向上させる能力と実践的な態度を育てる。
〔定期考査や授業・ワークシート記入において学習内容を理解している〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>70%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td>１年次の家庭基礎については、来年度からのカリキュラムを見据えながら進めることができた。
２･３年生の選択科目については、他教科や他系統との連携を考えながら進めることができた。今年度から実施の選択科目が多く、学習内容を生徒の実態や意欲を探りながら授業を進めることができたため、来年度は更に効果的に授業を進めていきたい。</td></tr>
<tr><td>生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる</td><td>実習を通し、実践的・体験的な活動を行うことで「生きる力」を身につけ、課題を解決するために工夫し自立的に生きる基礎を培う。
〔実習に意欲的に参加し、実習内容を家庭生活で生かす実践力を身につけてい
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>70%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>コロナウィルス感染症の影響により、計画どおりに調理実習の実施ができなかったが、それに代わる実習を工夫し行うことができた。来年度も調理実習が計画的に実施できないことを想定して授業や実習を計画していく必要がある。
被服実習や保育に関する実習は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行う中で実施するよう努めることができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">情報科</td><td>課題の提出</td><td>実習を多用するため、毎週課題を提出させる機会がある。その提出率をあげる取り組みをする。
〔課題提出率〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="3">B</td><td>実習に進んで取り組む生徒が多く、また課題の提出率は良い。すべての授業で課題の提出率80%以上であった。
しかし、１年次の実習では授業中に立ち歩く生徒がおり、授業が騒がしくなる等の課題があったが。わからないところを教え合う活動も見られ、次年度への指導につなげたい。</td></tr>
<tr><td>情報機器を用いたプレゼンテーション</td><td>プレゼンテーションの能力を向上させて、その技術も付けさせる。
〔プレゼンテーションをした回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>３回以上</td><td>２回以上</td><td>１回以上</td><td>０回</td></tr></table></td><td>C</td><td>授業を進めるうちに、エクセル実習が生徒にとって良いと判断したため、プレゼンテーションソフトに係る授業は３年生で1回しか行わなかった。国語科やアクティブなど他教科でもプレゼンテーションソフトの活用について取り組ませていたので、情報科ではエクセルに重点を置いた。</td></tr>
<tr><td>スマートスクール化の推進</td><td>タブレットやスマートフォンなどのＩＣＴ機器を活用し、より深い学びに向けた授業改善を行う。また、校内外を問わず研修会等に積極的に参加し、本校生徒の実態に応じた活用方法を模索する。
〔ＩＣＴを取り入れた授業の回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>５回以上</td><td>４回以上</td><td>１回以上</td><td>０回</td></tr></table></td><td>B</td><td>パソコンを使うのでタブレット等は使用していないが、音声編集やプログラミングなど様々なパソコンのソフトウェアを用いて実習させた。また、教職員の知識・技能の向上を目的とした府教委実施の講習をオンライン等で受講した。
情報処理室のパソコンが夏休みの間に更新され、バージョンの異なるソフトウェアが導入されたため、対応するのに苦慮した。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>項目（重点目標）</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評　価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="2">福祉科</td><td>社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を習得する</td><td>授業を通し、社会福祉の目的や理念を理解するとともに、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を習得し、福祉制度や各種サービスについて理解している。
〔定期考査・授業や実習をとおして、学習内容を理解している〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">C</td><td>成果としては、進路を見通して積極的にノートの作成を行い、テストなどの点数に結びつけられた生徒が多数いたことである。
課題としては、福祉系以外の進路希望者が意欲的に学習に取り組むことができず、基礎的・基本的な知識の習得が困難な生徒がいたことである。</td></tr>
<tr><td>ボランティア活動に積極的に参加する</td><td>地域社会の一員としての高い意識を持ち、積極的にボランティア活動に参加する。
〔ボランティア活動に参加している〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>D</td><td>社会福祉協議会からの依頼やボランティア部と連携してボランティア活動を考えていたが、依頼がなく実施できなかった。</td></tr>
</table>

学校運営協議会委員による意見・評価	◆コロナ禍で学校祭等工夫して実施していることに感謝している。活動が新聞に数多く掲載されており、大いに期待している。京都ＳＫＹセンターとの連携による「ねんりんサロン」は高齢者の多い地域にとって意義深い。 ◆各分掌・教科の評価には厳しい評価もあるが、もう少し高い評価でも良いのではないか。 ◆大江地域の各施設や地域住民との連携、福知山公立大学との交流、小学生の登下校の見守りへの協力、プログラミング教室など、地域とのコミュニケーションを図り、さらに地域の活性化に努めてほしい。 ◆引き続き生徒募集に努めてほしい。地元地域にとって大江高校はなくてはならない存在である。特色のある取組を大切にして他校と差別化をしてほしい。 ◆体育系部活動に積極的に参加させるとともに、弓道部等、特色のある部活動の認知度を地元に浸透させ、生徒募集につなげてほしい。 ◆伝統ある大江山登山競走が廃止となったのは非常に残念である。復活に向けた余地について要望があった。

次年度に向けた改善の方向性	◆学校運営協議会委員の方からは、本校の教育活動に対して前向きな評価をいただいた。保護者・地域住民の期待に応えることができる人材の育成に向けた教育活動に努めたい。 ◆平成30年度から減少を続けていた入学生は5年ぶりの増加となるが、いまだに募集定員を割り込んでいる。本校教育に対する一定の理解は得られているが、様々な生徒の希望に応える教育環境の整備とアピールに努め、さらなる入学生の獲得につなげる。 ◆ICT機器や生徒が持つ学習者用タブレット端末について、効果的な学習支援ツールとなるよう活用方法の研究を推進する。また、教職員間で情報共有し、あらゆる教育活動において積極的な情報機器の利活用を図る。 ◆地域創生科における特色ある教育活動をさらに魅力的に広報し、生徒募集につなげる。 ◆地域資源を活用した活動に取り組み、地域創生科の魅力を最大限に引き出す。系統的で戦略的な取組を行い、校外にアピールできる実績を積み上げる。 ◆様々な課題を抱える生徒に対して適切に特別支援教育の考えに立った教育活動を展開し、すべての生徒が安心して活動できる学習環境の構築を推し進める。